

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	(事務局用)		横浜市
アイデア名 (公開)	横浜サポーター ～もうアレコレ調べないのだ		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	チーム ひとり		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	穴倉 伸明	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【前提】

施設やイベントの情報はウェブサイトや SNS といったマスメディアを使った方法が主となっています。

より多くの人々に告知を行う事が周知への早道といわれていますが、

マイリティなイベント、資金の無い開催者はマスメディアを活用できず**十分な告知はできていません**。

弊害として、ニッチな条件を欲する人々が求めているイベントに巡り合うためにはどのような手段を使うのでしょうか？

「インターネットで検索する」「公共施設についてチラシを見漁る」「知人と情報共有をする」などです。

これもまた、手間をかけ検索しても本当に**必要な情報にたどり着くことは難しい**のが現状です。

より手軽に告知で手間をかけずに興味ある人に情報が届く手段が構築できれば、ニッチな需要を活性化する事ができるのではないかと考えています。

生きがいや継続的な運動の継続は健康寿命に反映され、地域コミュニケーションの活性化による地域性の向上、地域の見守り性の向上など広く可能性は広がっていきます。

【アイデア】

このアイデアは「個人の趣向に沿った情報」を「自動的に収集」し「最適な情報を提案」する仕組みの構築です。

情報発信を行うでもなく、自分が情報を探しに行くでもなく、特にアプリをダウンロードする事も想定していません。

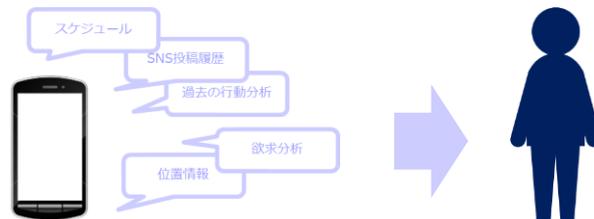
利用者の作業は「LINE」「Facebook messenger」「Slack」などメッセージツールでつづきだけでいいです。

本システムは自動的にウェブサイトやアプリから嗜好にあった情報をパーソナルに取捨選択し利用者に展開します。

1. ライフスキャンの実施

日々のスマホ活用で趣味趣向は蓄積され、傾向がパーソナライズされていきます。

過去に展開された SNS 会話や検索ワードも記録し、個人の嗜好を分析します。



※SNS/スマホ上の活動からパーソナルイメージを構成

2. ボットによる情報収集

ウェブサイト、SNS に公開されている情報はクローラというウェブサイトの自動巡回/情報収集ツール、

SNS アプリ自身が持つ分析機能を組み合わせさまざまな情報を収集していきます。

以下次葉

3.発生したニーズと情報の紐づけ

利用者は「いつ」「どこで」「何をしたい」「条件」を SNS に向けてつぶやくだけ。

項 1.でパーソナライズされた情報（障害の有無や趣向）にあわせ、2.で収集されたデータから最適なおすすめ情報を利用者に展開します。

利用者はアプリや検索サイトを意識することなく、特定のインターフェースから様々な情報データベースから得た情報を活用できることになります。

※一見、siri やワトソンと似ていますが、I/F が SNS アプリであるために **OS やアプリに依存しない情報提供**が可能になります。また、**統計分析だけではなく、AI も使ってパーソナルな期待に応える仕組み**です。

4.パーソナルなニーズに沿うライフサポーター

現在のウェブサイトやアプリはそれらの限定されたエリア（サイト/アプリ）の中での嗜好分析を行います、そのエリアから離れた時に情報連携を行う仕組みがありません。

今回想定する仕組みは、アプリやサイトのような表面的なものの構築無しに、パーソナルなニーズに対応したデータを収集し、提供するプラットフォームとなります。

Ex) 「（一人だけ）サッカーしたい」と思ったとき、「自由参加のサッカーがしたい」「チーム体験参加したい」と SNS アプリでささやきます。

↓

位置情報や開催時刻の情報をもとに情報を検索、同じようなニーズの人々をマッチングします。さらに空き会場を検索、ルート案内、各人のスケジュールと連携しグラウンドをとってしまう事などもできてしまいます。

体育館やアリーナのウェブサイトを巡回する必要はありません。SNS に語りかけるだけです。

マッチングサイトアプリのダウンロードも不要です。

アプリアイコンでいっぱいになったスマホ画面とはさよならしましょう。

市のウェブサイトの検索ボックスを「横浜サポーター（仮称）」に変更します。

検索ボックスの裏では SNS の入力 API が動作し検索。

もちろん、スマホなら音声入力での運用も可能です。



(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の 2 ページの欄内におさまるようお願いいたします。

携帯電話/スマートフォンの契約数は国内で約 16,000 万件。

※一般財団法人電気通信事業者協会サイト（2016 年）より <http://www.tca.or.jp/database/>

日本における SNS 利用者数は 6,793 万人とネット利用者数の 68%を占めており、利用者数の多い SNS における起動ユーザー数の最大が 約 4,000 万人となっています。

※出展 ヴァリユーズ「起動ユーザーの多いアプリランキング 2015/12」

http://patto-cms.jp/blog/15_researches_to_know_market_of_smartphones_and_apps/

- ①LINE 約 3,950 万人
- ②Facebook 約 2,567 万人
- ③Twitter 約 1,680 万人

情報収集の手間は、検索サイトや固有アプリを利用し、さらに SNS を数種、それぞれ検索を行わなければならない、その時間・手間は（ニッチな情報を欲する利用者にとって）**情報への欲求を挫くに値するもの**だと考えます。

※ICT 総研 2015 年度 SNS 利用動向に関する調査 より <http://ictr.co.jp/report/20150729000088-2.html>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

対象分野の特定 既存のNPO団体から協力を募る（NPO法人ODNなど）

イベント内容の公開方法や現在の開催状況などヒアリング

SNSプラットフォームの選定、開発者の公募

- ・C#や Javascript の開発者を募り、開発を行います。
- ・ボット（クローラ）の開発とプラットフォームとの連携の設計

ニーズや開発規模にあわせ以下のような仕組みを組み合わせさせていただきます。

- ・機械学習 教師ありモデルとして精度を上げるため
- ・A I ニーズ/移動/コミュニケーション/非特定個人の傾向などビッグデータの学術的利用のため。
- ・深層学習 画像解析データの収集のため。

・・・開発

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

GPS 位置情報との連携は準天頂衛星の活用プログラムとも役割期待が合うと思います。

以下のような仕組みとも連携する事ができると考えます。

さまざまなオープンデータとの接点が増えれば、市民の地域への思いや地元活動の活性化が期待できます。

全ての接続者が情報発信者として市に寄与する事になります。

1. L-aleart などとも連携し、災害時の避難/情報提示プログラムとしても稼働
地域経済分析システム（RESAS）と連携して経済活動の支援、人々の流通予測に沿った避難計画なども学習させることが可能になります。
2. 「○○のため」のような個別対応の仕組みではありません。
情報が集まり始めればなんにでも活用できます。横浜市の発信する新しい情報発信の仕組みとなります。
3. 画像解析エンジンを組み込み、防犯カメラと連動する事で、行方不明者のマッチングなどにも転用可能です。
4. 様々なオープンデータとの組み合わせで様々な広がり期待できます。あくまでも業務用ではなく、低い品質の中で市民の安心と安全、活動を支えていくための仕組みです。

懸念される事

1. 話を大きくしてしまうと特定部署では対応して頂けなくなります。
2. 情報の真偽を確認していく仕組みも必要です。
機械学習の傾向をあらかじめ広がりすぎないように設定し、常に偏りを監視する必要もあります。
3. 情報の精査はユーザの責任とする必要もあると思います。